

氏名 五十嵐 完二 (東区)

1. 新潟市の人口減少について

若い世代の首都圏への人口流出により、新潟市の人口は減少しています。人口流出に歯止めをかけるため新潟市は具体的に何をすべきであると考えられますか。

要旨

- ・新規産業の育成とともに、既存産業の支援をおこない働く場所を確保する。
- ・非正規雇用でなく正規雇用のため市が率先すると同時に企業に対しても要請し、行政としても必要な対応を行う。

詳細

産業の各分野で市民要望と結んで産業の育成と雇用の拡大となる施策が必要である。住宅リフォーム助成制度では地元経済に貢献し雇用も増えた。また商店リニューアル助成制度も商店存続の激励となっている。

また、総務省の調査でも正規雇用の男性の配偶者のいる割合は非正規雇用の2倍となっており、正規雇用を拡大することは人口減少にとって重要な課題となっている。

2. 若年層へ向けた政策について

18歳から30代の若年層に向けた政策についてお聞かせください。

要旨

働く場所の確保、住む場所の確保が必要。また、子ども医療費助成の対象年齢の拡大や州額援助の充実をはじめとして子育て支援策を強める。

詳細

「人口減少」の回答に加え、住む場所の確保では、若年層の経済力でも入居できる公営住宅の建設なども必要。

また、子ども医療費の拡大や就学援助の充実、少人数学級を拡大するなど、子育て・教育に対する負担の軽減をはかる。

3. 若年層の政治への無関心について

若年層が政治離れする一番の理由として、誰がやっても変わらないという意見がありますが、どのように感じていますか。

要旨

国民が声をあげても政治が変わらないという状況が多いことも要因ではないか。

詳細

最近では、原発再稼働ストップが多数にもかかわらず、推進しようとし、沖縄では辺野古基地建設も沖縄県民の意思が示されたにもかかわらず、政府はあくまで推進の立場である。こんな状況では政治に失望するのではないか。

また、政治家が若年層に魅力的な施策を示し切れしていないこともあるのではないか。

#### 4. 新潟市とSDGsについて

新潟青年会議所では本年度、私たちの考える明るい豊かな社会の実現のため、誰一人も取り残されない、持続可能な目標であるSDGsを推進していますが、SDGsの17項目のうちどの項目に力を入れて具体的にどのように取り組んでいきたいと考えますか。

要旨

国内問題としての「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」

詳細

この目標は、主に開発途上国に対するものと思われるが、日本国内や新潟市でも切実な問題となっている。

貧困対策としては、望まない非正規雇用をなくすことや、ひとり親世帯の児童扶養手当の増額、子どもの貧困対策では、就学援助の充実などが緊急の課題と考える。国に求める問題も多く、また、新潟市独自でも対応できるものもある。

高齢者は年金の引き下げも含め、医療や介護が十分に受けられない状況にもある。国の政治によるものが大きいですが、国民健康保険料の引き下げも含め新潟市が対応できるものもある。国に求めると同時に、新潟市民が健康と福祉がよくなるようにしたい。

#### 5. 中原市長の10の基本政策に対してどのように考えていますか。

10の基本政策のうち一つ選択し、お書きください。

要旨

10 「区」が活気あふれる新潟 ～各区の特色を前面に!

詳細

中原市長の基本政策の10番目に「区が活気あふれる新潟」があります。この中には、「新潟中心街との公共交通を見直すとともに、BRTは市民の皆さんの声を聞きながら、大幅直し・再検討します」とあります。

移動の権利は憲法でも保障され、また、福祉や文化、地域経済などのもとなる重要なものであり公共交通はそのカナメです。

乗り換えで不便になったとの声が多数のもと、直通便の大幅な増便、区バスや住民バスなど地域生活交通の充実が高齢化社会とあいまって不可欠の課題と考えます。